科目ナンバリング	U-LAS03 10006 SB48						
授業科目名<英訳>	外国文献講読（法・英）Ⅰ-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Law, English)I-E1			担当者所属職名・氏名	公共政策大学院 教授　　齊藤　真紀		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	外国文献研究			使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	火3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

日本法は、西洋法を継受して発展してきたところ、西洋法にもそれぞれに歴史があり、特色がある。西洋法を代表する代表的な国（英・米・独・仏）の法の歴史と特色を理解し、相対化することは、日本法の沿革と現在の立ち位置を理解し、将来の向かうべき方向を考えるにあたり、有益である。本授業においては、比較法における代表的な文献の講読を通じて、比較法の基礎と上記の代表的な諸国の法の特徴を学ぶ。

[到達目標]

・法的文書を含む、専門的な英語文献の読解力を身につける。
・精確な日本語訳ができるように、日本語の表現力を高める。
・比較法に関する知見を習得する。

[授業計画と内容]

Mathias Siems, The Comparative Law, 3rd ed. 2022 (Cambridge University Press) を講読する予定である。

第1回　イントロダクション
　指定文献を講読する上で知っておくべき前提知識の提供や、授業の進め方についての説明などを行う。

第２回～第14回　講読
　指定文献を数ページずつ講読していく。
　指定箇所を事前に数名ずつ割り当て、事前に提出された翻訳を検討する形で授業を進める。授業後に、リアクション・ペーパーの提出を求める。

《期末試験》

第15回　フィードバック（具体的方法は別途連絡する）

[履修要件]

外国文献講読（法・英）は専門への導入コースなので二回生以上を対象とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点40%（授業への出席状況・質疑における受け答え（20%）、和訳の提出状況・出来（20%））および期末試験60%を組み合わせて評価する。

外国文献講読（法・英）Ⅰ-E1(2)へ続く↓↓↓

外国文献講読（法・英）Ⅰ-E1(2)

[教科書]

授業に必要な資料はプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業において、事前の十分な予習が必須である。和訳の出来が悪い場合、平常点評価が低くなる。分からない単語等は調べた上で概ね意味を確認しておくこと。授業中および授業後には、授業で扱った部分の正確な和訳・内容理解をまとめておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

必要な資料及び情報については、KULASISまたは代替的な手段を通じてやりとりします（初回の授業で説明します）。初回よりも前に連絡すべきことがあれば、KULASISを通じてお知らせします。

この科目は法学部生を対象に開講される科目です。履修人数に余裕があれば、法学部以外の学生も履修することが可能ですが、法学部事務室で事前申込が必要です。詳細は履修（人数）制限に関するお知らせで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]

法学部